



『神が教えて下さる平安に生きる方法』

説教者：鄭南哲牧師

本日聖書の本文：ピリピ人への手紙4章4節-7節/ 暗唱聖句：ヨハネの福音書20章19節

愛する信仰の家族のみなさん！2021年！新年あけましておめでとうございます！本日は2021年初の主日新年感謝礼拝です。願わくは、今日から始まった今年中も52週間の全主日礼拝を通して、神のご臨在の中、神が与えて下さるたましいの安息と平安と力を頂き、保って、今年の日まで進み行けるみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

<1. 神様が与えようとしたいの- 真の平安 (平和) PEACE !>

“シャローム (Shalom)” というあいさつをしています。これは ‘あなたに神様の平安 (平和) があるように！’ という意味です。私たちも同じようにいつも人々に会ったらまず相手に平安と平和を祈ってあげる生き方になってほしいですね。その意味で、まず、新年今となりの人と ‘シャローム’ とあいさつをまわしましょう。(平安、平和 (ギリシャ語の聖書には: エイレイネ) は英語聖書: 全部 peace で使われている)

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。『平安があなたがたにあるように。』」20こう言って、イエスは手と脇腹(わきばら)を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。」(ヨハネの福音書20章19、20節)

復活の日の弟子たちの姿を思い巡らします。よみがえられたイエスキリストと再開するまで、イエス様の弟子たちは扉を閉じ、鍵をかけ、部屋の中に閉じ籠もっていました。彼らの心もまた恐れと不安の中で閉ざされていたことでしょう。しかし死に打ち勝ってよみがえられた主イエス・キリストはその真ん中にお出でくださいました。そして弟子たちにご自身をあらわし、「平安があなたがたにあるように！」とってくださいました。

我らは昨年から新型コロナウイルス感染の拡大とパンデミックの長期化の中で、世界も日本の社会も教会も大きな困難の中で歩んで来ています。そして、新しい新年を迎えても新型コロナウイルスの感染の拡大が止まらない中で、今週からお仕事も、子供たちの学校も始まるので、みんな感染の不安や恐れ、色々な煩いに抱えている愛するクリスチャンプレイズ教会の兄弟姉妹おひとりひとりのもとに、今も復活された我らの救い主なるイエスキリストがお出でくださることを心から待ち望み、そうなさって下さることを信じます！そして主イエスの十字架の傷跡を前に「20節、弟子たちは主を見て喜んだ」とあったように、私たちがこの主にある喜びと希望、平安に満たされ包まれることを信じ、待ち望みます。

復活の後、イエス様がエマオという村に行く道で落胆している弟子たちに会った時にもまず、「あなたがたに平安があるように」と言われました(ルカ 24:36)。イエス様は十字架につけられる前夜、弟子たちに御霊を約束しながら平安の祝福を与えます。

我々が信じている三位一体の神様、特にイエスキリストは平安、平和の神であられると聖書はよく教えて下さっています。私たちがイエスキリストを心から信じ、共に歩む時、神様と関係が和解されます。そして神様と和解されたその人たちに与えられる神様からのプレゼントが与えられますが、その一つが ‘神の平安’ なのです。「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。(ローマ人への手紙5章1節)」

その神の平安は人からの単なる情緒的な落ち着き、安心な心の状態ではありません。御霊の実として、与えられる神からの平安なのです。(ガラテヤ人への手紙5章22-23節)

神自分の中にこの神の平安を保っている人々にはかならず、となり人とも平和をたもとうとし、これがまさしく平安の実であり、平安の祝福なのです。

始まった新年にはさらなるキリストイエスにある豊かな平安が子供たちの心のうちに、お一人お一人の上に、ご家庭の上にありますように！主のよみがえりを祝ってささげられる今年の毎週の全ての主日礼拝に、復活の主の平安が満ちあふれますように！今も感染拡大を止めるべく労しておられる方々、感染の影響を受ける人々のために労しておられる方々、行政、医療、福祉、教育その他各分野の働き人に主の守りがありますように！罹患している方々に速やかな癒やしがありますように。亡くなった方々とご遺族に主の御手がともにありますように。この事態が一日も早く終息しますように。切にお祈り申し上げます。

聖書を読んでいると、我々が艱難の人生、恐れ不安の状況の中であっても保つべき生き方はまさしく“平安の生き方”だと示されています。

<2. 私たちはどうすれば、平安の人生、平和を作る生き方を保つことが出来るでしょうか。>

①いつも平和のキリストとの関係をしっかり保つ必要があります。

今日の本文4節をみると、“いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。”とされています。愛するみなさん！どうやって主の平安をいただくことができるのですか。平安の日々、平和の生き方を願っているならば、大切な前提になる条件がここにありました。4節に出ている“いつも主にあって”という御言葉です。

御霊の実である平安、平和というのは変わる事のないことを意味します。私たちの感情的な安定ぐらいのものではありません。聖書で言う平安というのは人によるぐらいのものではありません。力があります。自分自身を、他人の関係すべてを守る力があります。神からの平安はどんなにむずかしい問題、嵐と悩みがあっても、それに揺るがないで、左右されず、流れません。むしろ、大切な神からの自分の人生を平安によって保ち、また他の人たちとも平和の關係にさせる力があります。もう一度、イエス様の御言葉を覚えましょう。ヨハネの福音書14章27節です。「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるん(恐れて)ではなりません。」

この神の平安の祝福と実をむすぶ、保って行くための前提があります。それは、いつも主にとどまっているときのみ(いつもキリストとの關係を保っている時)なのです。ピリピ人への手紙4章1節だれかが読んでくれますか。「ですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。このように主にあって堅く(しっかり)立ってください。愛する人たち。」ここでも大切に強調されている部分が、「主にあってしっかりと立ってください。」というところにあります。神の平安の実が結ばれ、その平安を保ち、全ての關係において平和を作っていく今年一年となるために、イエス様との正しい關係をしっかりと保って生きる人たちこそ、体験出来る祝福であると教えて下さっています。ローマ人への手紙5章1節に、「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエスキリストによって、神との平和を持っています。」

嵐と荒波の中で恐れ、不安の中に弟子たちが、それに流されずに、キリストの平安を保ち、貰われた理由は、単純でした。その小さな小舟にキリストと一緒に乗っておられたからです。嵐と荒波をしっかりとつけられる力を持っておられたイエスキリストが我らの生活の小舟にいつも一緒に乗って下されるように、キリストとの關係を保つ時こそ、キリストにいつもとどまっている時こそ、我らは、キリストによる神の平安で守られ、生き抜ける一年となることを信じます。

②イエスキリストの御名による祈り(委ね切つて)を通して、様々な煩いを取り除けます。

本文の6節をみてください。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」この本文の箇所では平安の生活を脅かす、一つのものであらわれます。「思い煩う」ことだと教えて下さっています。思い煩うことがあれば、心の平安は揺るがされます。ギリシャ語で「思い煩い」というのは「メリムナ」という単語で、その意味は「心が分かれる」という意味です。そういうわけですので、思い煩えば、煩うほど、自分たちの心は分かれて、分かれて、ますます分裂してしまいます。度を過ぎると、結局精神分裂症のようになってしまうのではありませんか。思い煩いというのはこのように人の心を分裂させ、破壊するものなのです。しかし思い煩うことによってなかなか問題の解決にはならず、さらに状態を悪化させてしまいます。そしたらどうすれば、平安の生活、平和をつくる人生を保って行くために、心の思い煩いをどう取り除き、心の中で追い出すことが出来るでしょうか。

今日、聖書ではなんと教えているのか御言葉をとおして答えをさがしてみましよう。6節をみるとはじめに「何も思い煩わないで」という言葉がです。だから思い煩いを克服するためには、まずみなさんの心の中にある色々な思い煩っていることを中断しなければいけません。そして、思い煩っている心のすべてを、祈りの言葉に変えることです。つまり、みなさんの心の中で今思いわずらいがあったとしたら、「あ！祈るべきことが出来た！」と思って、イエスキリストの御名によって、打ち明け祈りなさいということです。

<3. そしたら、思い煩いを取り除く為、どう祈るべきでしょうか。>

①感謝を持って祈る

もう一度、本文6節をごらんになりますと、祈る時に、感謝をもって祈るように教えて下さっています。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いに」

人はいつも自分がだれかにやってあげたことはよく覚えていても、自分が持っているもの、受けたことはすぐ忘れてしまう傾向があります。自分にはないもの、足りないものばかり考えるためなかなか感謝することができません。感謝は我々に与えて下さった神様の恵みに対する反応です。祈る時に大切なのは、全てを当たり前と思わず、他の人と比較しないで、神の恵みをして覚え、忘れないことです。

ジョンメイソン(John Mason)は「与えられたことに対して感謝の知らない人はこれから自分に与えられることに対しても感謝することはできないはずだ。」と言いました。ダニエルの生涯を黙想しながら感動されたのは彼の祈りと感謝でした。ダニエルは祈りをいのちのように思っていました。バビロンの王の命令を拒むと獅子の穴に投げ込まれ死ぬことを知っているのにもかかわらず祈り、さらに祈りながら感謝しました。「ダニエルは、その文書に署名されたことを知って自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角(ほうがく)に窓が開いていた。彼は、以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。(ダニエル書6章10節)」

使徒パウロは「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。(コロサイ人への手紙2章6-7節)」

なぜ神は感謝を持って祈り、感謝を保つように教えて下さっているのでしょうか。感謝こそ、祝福の秘訣であり、幸福の秘訣であり、人と良い関係が平安に保つ秘訣となり、逆境を新しいチャンスに変える秘訣となるからです。イギリスのスパルジョン先生は感謝の言葉についてこう残して下さいました。「不幸である時、感謝すると不幸が終りになり、順境の時、感謝するとその順境は続きます!」

どんな時にもまず感謝を忘れないで下さい。どうしても感謝ができない時さえも、感謝を見出し、祈りの中で感謝を忘れないで下さい。すると、神は感謝のできない出来事を感謝のできる出来事に変えてくださいます。神様は生きておられ、必ずこの難しい出来事も通り抜けるようにさせ、必ず益として下さると絶対信じる人は、神を信頼し、感謝を持って祈ることが出来るのです。

「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。(コロサイ人への手紙3章15節)」

②根気よく求め続けながら祈る

どんな祈りですか。普通の日常的な、形だけの祈りではありません。新改訳聖書では(祈りと願いによって)だと訳されていますが、ギリシャ語の原文と英語の聖書では祈りと懇願(切に求める祈り)をもって神様に祈りなさいと書かれています。‘祈りと切に求めること(prayer and petition)’によって神様に知っていただきなさいと言っています。祈りますが、切に求めることを集中的に祈ること、つまり、懇切に求める祈りを意味するのです。自分の思いわずらいが消え去り、神様の平安が自分の心に訪れるまで、根気よく、たえず求めなさいという意味なのです。

<4. その結果何が起こりますか。>

そうすれば、どんなことが起こりますか。7節です。「そうすれば人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリストイエスにあって守ってくれます。」とても注目すべきな部分は、神様は私たちが祈れば思い煩っていたすべてがすぐ消えさせたり、すぐうまく解決せたり約束されない時もあるかも知れません。もちろんある場合、思いもよらなかった不思議な奇跡が起こって問題が解決される場合もあります。みなさんのまわりにそのような場合もあったと思います。しかしこれは例外でもあります。だいたいの場合は必死に祈ったのにもかかわらず、思い煩っている環境や問題その自体はかわらずにそのままである時もあるかも知れませんが、7節の御言葉によると「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」と約束されているのです。思い煩う、そのものはそのままであるかも知れませんが、神様の平安が自身の心と思いを守ってくださるのですから、これからは心配しないで、平静に状況を判断する力が与えられます。つまり、問題をどうやって解決すればいいのか、正しく判断することができる知恵があたえられるのです。そうすれば、問題に堂々と向き合っていけます。

愛するみなさん！わたしたちの人生はまさに、手におえないものであり、まるで、あらしの海を航海する船のようでしょう。おさまっ

たと思ったら、次は違ったはげしいあらしが襲って来て、わたしたちを倒そうとします。時にはたえないほどの荒波によって人生の船がもうおしつぶされそうです。どうすれば、おさまった海のようにわれわれの人生に平安を保つことができるのでしょうか。

簡単です。自分たちの人生の船にイエスキリストを招き、その人生の船の舵をイエス様にゆだねることです。

人生の船の船長を自分からイエス様に委ねて、進んでいけば、イエス様は私たちが真の平安の道に導いてくださいます。

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！是非今年中には毎日この平安の祈りを主に祈ることはいかがでしょうか。

【平安の祈り】

ラインホルド・ニーバー先生

神様、どうか私にお与えください。

変えられないものを受け入れる心の平安を

変えられるものを変える勇気を

そして、その違いを見極める知恵を

与えられた一日を背一杯生きることができるよう

一瞬一瞬を楽しむことができるように

苦しみは平安への通り道であることを

受け入れることができるように

たとえ自分の願い通りにならなくても

主イエスがされたように

この罪深い世界をそのまま受け入れることができるように

もしあなたの御心にゆだねるなら、

あなたがすべてを正しく導いてくださることを

信じることができるように

そうすれば、私はこの地上において幸いな人生を送り

また天国においては、あなたと共にある最高の幸せに

あずかることができますでしょう

今日もすべてをあなたの御手にゆだねます

平和の主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン。

<4. 具体的に周りにいる人たちと平和を保って行く必要があります！>

平安の日々、平和の生き方を願っているならば、一緒にローマ人への手紙12章18節をさがして読んでみましょうか。

「自分の関することについては、出来る限り、すべての人と平和を保ちなさい。」と命令されています。

イエス様も私たちに隣人と平和を保ちなさいと言われました。そうすれば、心にも平安の祝福が注がれると約束しています。

イエス様ももちろん私たちが隣人と平和を保ちづらいつきもあることをよくご存知です。しかし祈りながら最善をつくして隣人と平和を保つようにしてみてください。ただ祈るだけで、終わってはいけません。自分の心の平安、そして周りのすべての人々と平和を保つためには、祈った後、実際に具体的に行いをもって努力しなければなりません。

イエス様はマタイの福音書5:9節で「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子供と呼ばれるからです。」と約束されました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！これから言葉を通して、みなさんの行いを通してぜひ平安の祝福を伝えてください。

例)1200年代、ヨーロッパ全土は十字軍戦争が起きようとしている戦争の直前のざわめく雰囲気その場でした。

そのときヨーロッパに自称神様を信じていると言っている人たちがイスラム人たちにたいする憎しみとのろいのメッセージを言いちらかしていました。この風潮によって人たちの心には‘イスラムを信じていたたちみんな殺せ！エルサレムを奪還するためにはイスラムの人たちを全滅させなければならない。’という憎しみの心が全ヨーロッパを支配していた時代になっていました。

結局、その憎しみは十字軍戦争の発端になってしまったのです。神様を信じているというヨーロッパの指導者たちと民たちさえも憎しみに捕らわれ、隣人への敵対心を燃やしていたのです。どんな赦しも、寛容もなく、ただ自分たちの意志だけが‘神様の御

心'だと叫びながら、他の人たちを殺すための行進をはじめていたのです。ところが、この十字軍の行列をみながらある若い修道士はこの有名な予言をしたそうです。“この十字軍戦争はかならず敗北する。憎しみの動機からはじまったこの戦いを神様が喜ばされることはありません。いくら神様の御心だと主張していても、憎しみと敵対心が動機になっているかぎり、神の祝福をいただくことはない。ですから、この戦いはかならず敗北する。”この修道士は隣人を殺しにいく人たちを見ながら、じっといられませんでした。そして自分なりに、ほかの十字軍を作りました。これがあの有名な‘平和の十字軍’でした。彼らは行列をならんでしずかに進みました。手には剣のかわり聖書をもって死んでいく敵軍を抱きしめて彼らに謝罪しました。この平和の十字軍の指導者であったわかい修道士は戦争場に平和を伝えるに行くために、いつもひざまずいてあの有名なアシシのプランシスコが祈っていた祈りを毎回ささげたそうです。

『平和の祈り』

主よ！わたしを平和の道具にしてください。

憎しみのあるところに愛を

争いのあるところに和解を

分裂には一致を疑いには信仰を

誤りには真理を絶望には希望を

悲しみには喜びを闇には光をもたらすことができますように。

主よ！わたしたちがあれこれ求めることをやめ、

かえって、慰められることよりも慰めることを

理解されようとするよりも理解することを、

愛されようとするよりも愛することを望ませてください。

恵みのうちに恵みを受け

赦しのうちにゆるされ死のうちに永遠に生きるのだから。

始まった新年の2021年には、もう一度、一日が始まる時には平安の祈りと主の平和の祈りを捧げたいかがでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！新しい新年に愛する信仰の家族のみなさんの心のうちに、今年一年の人生の歩みの上に、愛するご家庭の上に、職場の上に神の平安と平和がますます豊かにありますように神の平安と平和の祝福を切にお祈り申し上げます。

“主よ、大騒ぎ、恐れ、不安、思い煩い、罪深いこの世の中で許された新しい一年間、どうか、我らに日々平安をお与え、私たちが神の平和の道具として大いに用いてください。我々に神の平和の実が豊かに結ばれ感謝が溢れる2021年となりますように、我らに祈り続けられる力をもお与えください。平和の主なるイエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！”

